

下記の文章を読み、下線部について自身の考えを 800 字以内で記述せよ。

人工知能（A I）のセミナーやシンポジウムが花盛りだ。

技術は時として、予想をはるかに上回る速度で進む。A I もそんな段階に入ったのか。人間は A I にどう向き合うべきか。そして、これからの時代に備えた人づくりとは――。

本格的に考えなければならない時期に来ている。

いまの社会的ブームの大きなきっかけは、2年前に囲碁A I「アルファ碁」が世界最強とされた棋士を破ったことだった。

データ処理能力の飛躍的進歩が生んだA Iは、生活を豊かに変える可能性を秘める。

静岡大学の竹林洋一特任教授らは、高齢者介護の質の向上に活用しようとしている。

お年寄りへの声のかけ方ひとつをとっても、介護する者の姿勢や位置、音の調子、高低、タッチの有無など、多くの要素から成る。実際の画像をもとにそれらを解析すれば、お年寄りを笑顔にするアプローチを定式化できる。優れた介護者の育成に役立つだけでなく、認知症に関する知見の深化や理解につながることを期待される。

一方、A I 時代に対する不安の中で、最も現実味をもって語られるのが雇用への影響だ。

A I 搭載のロボットは複雑な生産現場にも進出するだろう。大量で多様なデータを公正・迅速に評価することが求められる市場調査、融資の判断、さらには人事業務にも導入が進む。十数年後にはホワイトカラーの仕事の半分がA I に置きかえられるという見方もある。

A I を活用しつつ、人間らしく働き、生活するにはどうしたらいいのか。

人間は計算力や記憶力でコンピューターに及ばない。それでも困らないのは、道具として使いこなせているからだ。A I についても本質は変わらない。大切なのは、A I をどう制御し、人間の幸せのために役立てるかを考え、その方向に社会を構築していくことだ。

朝日新聞 DIGITAL （社説）AI 時代の人間 豊かな活用に道開くため より抜粋